

【 2020年度 国際交流委員会 事業報告 】

国際交流委員会

委員長校 : 神戸大学

副委員長校: 神戸市外国語大学、神戸常盤大学、神戸常盤大学短期大学部

委員校: 明石工業高等専門学校、芦屋大学、大手前大学、大手前短期大学、関西国際大学、関西福祉大学、
関西学院大学、聖和短期大学、甲南大学、甲南女子大学、神戸海星女子学院大学、神戸学院大学、
神戸国際大学、神戸松蔭女子学院大学、神戸女学院大学、神戸親和女子大学、園田学園女子大学、
園田学園女子大学短期大学部、姫路獨協大学、兵庫大学、兵庫大学短期大学部、兵庫県立大学 計26校

<目的>

「国際都市神戸」を有する兵庫県の大学・短期大学・短期大学部・高等専門学校が加盟するコンソーシアムとしてグローバル人材育成を目指した事業を展開する。

<内容>

- 1、学生海外派遣プログラム
- 2、模擬国連演習(NMUN(National Model United Nations))
- 3、兵庫国際交流会館における国際交流拠点推進事業

<期待される効果>

- 1、学生派遣プログラムにおいては、委員校が実施するプログラムを加盟校に開放し、当該プログラムに興味を持つ複数の加盟校の学生がプログラムに参加して交流することで、正課授業では得ることのできない経験とネットワークの構築が期待される。
- 2、模擬国連演習においては、大学が横断的に連携して実施することによる、地域内の学生間の交流の促進と参加者の国際問題や国連システム等に対する理解の醸成が期待される。
- 3、兵庫国際交流会館における国際交流拠点推進事業においては、学生が主体的に学ぶことによる行動の変容、大学連携・産官学連携による留学生支援の新たな課題とニーズの取組促進、高度外国人材としての留学生の理解促進等の効果が期待される。

実施プログラム名称		予算額
①	学生派遣プログラム	50,000円
②	模擬国連演習(NMUN(National Model United Nations))	0円
③	兵庫国際交流会館における国際交流拠点推進事業	9,625,000円

【2020年度 国際交流委員会 事業報告①】

課題	“ひょうご神戸”の国際性を活かしたグローバル人材教育			
達成目標	本プログラムへの参加を通じて国際理解が深まったことを実感する学生の割合:参加学生の80パーセント以上(期間中に2回測定)			
課題を解決する取組概要	日本は、衛生面・医療面で世界的に恵まれているが、国外において自らが体験することで医療に対する国際感覚を高める。習慣・文化・社会が日本と大きく異なる国への訪問を通して自国の状況を客観的に判断可能になり、海外から学ぶべきこと、また、海外で貢献できる点を理解し、問題解決能力を養う。			
活動指標	参加者数:2名以上/年(主催大学以外の学生数)			
内容 (結果)	<p>【計画】 実施内容 ○医療検査コース(対象学科:臨床検査技師や栄養士など医療系学科) アメリカ(ボストン):病院、バイオテック企業、大学研究室などへの訪問。 医療検査の知識を発展できる施設でのインタビューを通じた見学研修 ネパール(カトマンズ):病院、研究所、医療系大学等へ訪問、水質調査、微生物検査、衛生環境の調査など フィールドワークを主とした内容、現地医療系学生との交流</p> <p>○看護コース(対象学科:看護師養成系学科) アメリカ(ボストン):世界トップレベルの病院、大学研究施設、ホームレスクリニック等へ訪問。視野を広げる研修 ネパール(カトマンズ):現地病院やヘルスポストなどへ訪問。住民の健康状態の調査などフィールドワークを主とした内容。現地医療系学生との交流</p> <p>開催時期:2020年9月12日(土)~9月22日(月)(予定) 募集人数:各コース各国若干名 費用:アメリカ32万円、ネパール20万円(為替、航空券代金によって変動あり) 引率者:神戸常盤大学教員 各コースごとに1~2名 その他:事前および事後研修への参加が必要(場所:神戸常盤大学) 事前説明会:4月4日に予定していた説明会(場所:神戸常盤大学)は新型コロナウイルス感染症影響で中止</p> <p>【結果】 COVID-19パンデミックによる渡航制限の為プログラムを中止し「国際保健医療活動Ⅱ」は不開講となった。</p>			
新しい試み等 (事業計画に記載)				
事業収支	収入	支出	収支	備考
	50,000円		50,000円	
自己評価	【対到達目標】	-	【対継続性】	4
	・次年度以降も事業継続の予定。			
■自己評価基準 (対到達目標)	4:当初計画を上回って達成 3:当初計画を達成 2:当初計画をやや下回った 1:当初計画を下回った -:判定不能		■自己評価基準 (対継続性)	4:本プログラムは継続すべき 3:本プログラムは継続しても良い 2:本プログラムの継続には改善が必要 1:本プログラムは中止すべき
理事会からの 改善提案 (次年度事業計画 に反映)	・新型コロナ影響で中止となったが、昨年の参加学生の満足度は高く、来年度以降も継続して開催することを期待する。			

【 2020年度 国際交流委員会 事業報告②】

課題	“ひょうご神戸”の国際性を活かしたグローバル人材教育		
達成目標	本プログラムへの参加を通じて国際理解が深まったことを実感する学生の割合：参加学生の80パーセント以上(期間中に2回測定)		
課題を解決する取組概要	世界で最も権威のある「模擬国連世界大会(NMUN)」を、2020年11月に神戸市外国語大学が主催校として実施するにあたり、海外から集まった学生らと交流を図る貴重な機会として生かすため、「模擬国連世界大会演習」科目を2020年度後期に設置し、履修者を募集する。		
活動指標	【参加者数】2校5名／年以上		
内容 (結果)	<p>【計画】 開講期間 8月8日～12月5日(15コマ) 募集人員 20人 開講場所 ユニティ 参加要件 授業はすべて英語で行われるため、TOEIC780以上の英語力があること。 模擬国連世界大会神戸大会(11月25日～29日)への参加を必須とし、受講生は、同大会参加(宿泊)費として1名5万円を自己負担すること。 ※詳細な内容はチラシ等添付</p> <p>【結果】 ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、今年度は実施を見送り、2022年に開催を延期した。</p>		
新しい試み等 (事業計画に記載)			
事業収支	収入	支出	収支 円
自己評価	【対到達目標】	-	【対継続性】
	<p>4</p> <p>・新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、行事そのものが2022年に延期となり、これに伴い本事業の実施も延期となった。</p> <p>・2022年には本年の計画どおりの内容で実施する予定である。</p>		
■自己評価基準 (対到達目標)	4:当初計画を上回って達成 3:当初計画を達成 2:当初計画をやや下回った 1:当初計画を下回った -:判定不能	■自己評価基準 (対継続性)	4:本プログラムは継続すべき 3:本プログラムは継続しても良い 2:本プログラムの継続には改善が必要 1:本プログラムは中止すべき
理事会からの改善提案 (次年度事業計画に反映)	<p>・新型コロナ影響で、模擬国連世界大会(NMUN)は中止となったが、2022年度での世界大会開催に期待する。</p>		

【2020年度 国際交流委員会 事業報告③】

課題	“ひょうご神戸”の国際性を活かしたグローバル人材教育			
達成目標	本プログラムへの参加を通じて国際理解が深まったことを実感する学生の割合：参加学生の80パーセント以上（期間中に2回測定）			
課題を解決する取組概要	<兵庫国際交流会館における国際交流拠点推進事業> 大学連携による国際交流の拠点を、大学キャンパス外の地域社会に形成することで留学生と日本人学生、地域の人々が学びあう多文化共生社会に向けた場を創造する。			
活動指標	参加者数500名以上／年			
内容 (結果)	<p>【日本学生支援機構委託事業 兵庫国際交流会館における国際交流拠点推進事業】 大学連携・産学官連携による人材育成と国際交流拠点事業の推進を下記5つの目的に従って実施した。 ・合計1610人参加、各回イベントの開催日・参加者数は以下のとおり</p> <p>■1、外国人留学生の活用と相互理解・共生推進のための事業 ①人との関わり方を学び合う「ファシリテーション・プロジェクト演習」 (1)「異文化コミュニケーションで実践」2020/10/2～12/6(全10回)、121人 (2)「Team G-navi(学生企画)」として、プログラム4種・全48回・271人が参加した。 「オンラインミーティング」2020/4/27、5/1、6/17(全3回)、37人 「Let's talk!」2020/6/3～9/30(全16回)、78人 「にほんごDEゴー」2020/6/9～9/30(全15回)、84人 「日本語でレツトーク」2020/9/8・16・23・30・10/7・14・21・28(全8回)、72人</p> <p>②大学等との連携による協働事業(アウトリーチによる国際交流の推進) (1)「多文化☆オンラインで国際交流！」(甲南女子大学協働プログラム)2020/6/24/7/22/10/22 11/26(計4回)、68人 (2)「キャリアの羅針盤-私の職業選択とその転機」(甲南大学国際交流センター協働プログラム)2020/7/10、76人 ※2②キャリアカフェ「Nada Global Village第37回(NGV)」での協働</p> <p>■2、高度外国人材としての留学生向けキャリアサポート ①英語でのキャリアイベント English trackの留学生を主な対象とするキャリアイベント(公益社団法人関西経済連合会、文部科学省国費留学生協会共催) 「Ask Us anything」(2020/9/26、10/24、12/19、2021/1/30・計4回)、97人 「Get Ready For a Successful Job-Hunting in Japan 2020 for international students」2020/11/28、2021/2/27(計2回)、148人 ②キャリアカフェ「Nada Global Village(NGV)」 第36回～第43回(2020/6/29、7/10、2020/8/28、9/29、10/20、11/13、1/25、2/7(計8回)、209人</p> <p>■3、防災教育「防災セミナー」 「おうちで避難訓練～災害大国日本で大切な命を守るために～」2020/12/6、44人 「多文化共生から始まる防災・減災と復興『コロナと防災』」2021/2/28、24人 「マイクラHUGワークショップ～防災×ゲーム～」2021/3/11、14人</p> <p>■4、地域連携プログラム「英語村」 高校生を対象に留学生・日本人学生が英語でのコミュニケーションの楽しさや学びを提供。 (1)「English Virtual Village 英語村」2020/6/12・9/18(全13回)、71人 (2)「英語村」2020/11/20、12/13、1/10(全3回)、105人</p> <p>■5、留学生・国際交流情報の発信事業・支援者間ネットワークの体制整備 (1)オンラインサロン「Let's talk!」2020/5/15～29(計13回)、68人 (2)webセミナー「外国人留学生向け就職セミナー」2020/5/31、115人 (3)コロナ禍での加盟校及び留学生向けアンケート・ヒアリング(計4回) ①緊急事態宣言下「新型コロナウイルス感染拡大による緊急アンケート」(4月～5月)21校 ②緊急事態宣言解除後「留学生実態調査「新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急アンケート調査」(実施期間)2020/6/8～6/15(回答数)13校180人の留学生回答 ③緊急事態宣言解除後「新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急アンケート調査」調査後ヒアリング(実施期間)2020/7/6～17(回答数)6校、36人 ④後期開講(9月)「新型コロナウイルス感染症の拡大対応についてアンケート」(実施期間)2020/9/14～23 ※国際交流委員会委員校(26校)(回答数)17校(14法人) (4)事例報告・情報交換会「コロナ禍における留学生支援と対応」2021/3/10、39人 【新型コロナウイルス感染症拡大予防により、全プログラムをオンラインにて実施】</p>			
新しい試み等	<p>・2020年新型コロナウイルス感染症拡大による緊急事態宣言の発令期間中、自粛生活を余儀なくされる学生に対する緊急対応として、情報提供、学習意欲と生活リズムの維持等の寄り添いを目的にオンラインサロンを約2週間(2020/5/15～29・月～金の毎日)開設した。 ・後期に向けて通学登校等が再開されるまでの前期期間中(6月～9月)はオンラインによる交流の場(オンラインサロン)を週3回・定期的に提供し、学習意欲の維持など、緊急対応を継続した。 ・コロナ禍での留学生の状況把握のためのアンケート調査、加盟校ヒアリングなどを実施し、学生・加盟校のニーズを把握したうえで、当初対面型で計画していた全プログラムをオンラインにより積極的に展開した。</p>			
事業収支	収入 9,625,000円	支出 9,625,000円	収支 0円	備考
自己評価	【対到達目標】	4	【対継続性】	4
自己評価	<p>・コロナ禍で対面での開催が困難な状況が続く中、全プログラムをオンライン化し、計画通り本年度プログラムを遂行した。 ・コロナ禍で留学することができない日本人学生に、加盟校が連携プログラムとして、本事業を活用する展開があった。 ・また留学生のキャリアサポートにおいて、関西経済界や全国各地の留学生のキャリアサポートを行う教職員との連携ができた。 ・コロナ禍の緊急事態下では、留学生からの相談に対応し、留学生が主体的に活動するプログラムも実現できた。 ・改善点は、本事業の情報発信の方法や広報の仕組みを工夫・検討する必要があること。引き続き、加盟校ならびに教職員・学生、地域や産業界のニーズに応えながら、多文化共生社会の視点でオフキャンパスでの人材育成・国際交流事業の継続・発展に取り組んでいきたい。</p>			
■自己評価基準 (対到達目標)	<p>4:当初計画を上回って達成 3:当初計画を達成 2:当初計画をやや下回った 1:当初計画を下回った -:判定不能</p>			
■自己評価基準 (対継続性)	<p>4:本プログラムは継続すべき 3:本プログラムは継続しても良い 2:本プログラムの継続には改善が必要 1:本プログラムは中止すべき</p>			
理事会からの改善提案 (次年度事業計画に反映)	<p>・全ての事業をリモート形式に切り替え実施。感染症拡大初期、留学生の孤立を防ぐオンラインサロン開催は特筆に値する。 ・国際交流拠点推進事業として事業の特徴、事業間の相関性、継続性の観点から更なる事業充実を図って頂きたい。</p>			